

第28回 京都府看護学会 演題登録要項

1. 演題申込資格

筆頭研究者(発表者)および共同研究者は、本会会員であること。ただし、共同研究者が看護職でない場合は、会員でなくても共同研究者となることが出来る。

2. 演題登録要件

- 1)筆頭研究者としての応募は1人1演題とする。
- 2)未発表の演題であること。ただし、施設内発表は可とする。
- 3)本要項に則って作成されている。

3. 種別

1)研究報告

調査等に基づく研究の成果についてまとめられた、看護学の発展につながる報告。

2)実践報告

臨床等の実践内容から得られた成果についてまとめられた、より質の高い看護実践につながる報告。

※業務改善や実践報告であっても、患者データを用いる場合は、研究に該当するか事前に施設の倫理審査委員会や看護管理者に確認する。

4. 発表形式

口演と示説(ポスター)形式がある。

演題登録時にどちらかを選ぶことができるが、申込みとは異なる発表形式になる場合がある。最終的な決定は、本学会事務局が行う。

5. 演題登録区分

演題を登録するにあたり、日本看護学術集会演題登録区分に基づき、下記より選択する。

大項目		小項目	
I	健やかに生まれ育つことへの支援	1	安全で安心な妊娠・出産
		2	院内助産・助産師外来の開設推進と評価
		3	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
		4	子育て包括支援
		5	障害を抱える母子への支援
		6	その他
II	健康に暮らすことへの支援	7	セルフケア能力の向上
		8	健康維持・増進
		9	地域における保健医療福祉に係る計画策定等
		10	健康危機管理
		11	その他
III	緊急・重症な状態から回復することへの支援	12	緊急・重篤な状態の患者の臨床推論と実践
		13	患者の回復と生活の質の改善
		14	治療提供や新たな医療技術における倫理判断と意思決定
		15	その他
IV	住み慣れた地域に戻ることへの支援	16	円滑な在宅移行支援
		17	退院後の生活の調整
		18	訪問看護
		19	その他
V	疾病・障がいとともに暮らすことへの支援	20	疾病および障がいの重症化予防
		21	ケースのマネジメント
		22	療養と就業の両立
		23	本人と家族の意思尊重、意思決定支援
		24	その他
VI	穏やかに死を迎えることへの支援	25	苦痛と不安の緩和
		26	死に関する予測の告知と意思決定支援
		27	看取りケア
		28	その他

大項目		小項目	
VII	看護制度・政策	29	看護制度
		30	看護政策
		31	その他
VIII	看護管理	32	看護の質管理
		33	医療安全・感染管理
		34	労務管理
		35	看護職の確保・定着
		36	看護業務
		37	チーム医療・チームケア
IX	看護教育	38	その他
		39	基礎教育
		40	新人教育
		41	継続教育
X	国際看護	42	その他
XI	国際看護	43	国際看護
	災害看護	44	災害看護

6. 倫理的配慮

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年3月23日制定)」にある「人を対象とした研究」である場合、研究倫理審査を受審することが必須となる。研究倫理審査を受審した場合論文中に承認番号を必ず記載する。また、研究・報告の過程で行った倫理的配慮を抄録内に記載する。

※人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針：[20220310006-1.pdf](https://www.meti.go.jp/20220310006-1.pdf) (meti.go.jp)

「人を対象とした研究」とは、介入・観察を伴う臨床研究や、匿名化されていない既存データ・試料を用いた研究などを指す。

指針の対象外で倫理審査を受審しなかった場合も、研究・実践報告の過程で行った倫理的配慮は論文内に記載する。

【記載例①】 A病院の研究倫理審査委員会の承認を得た(承認番号 A-〇〇)

【記載例②】 対象者には個人が特定されないよう匿名化することと情報の管理について、また、学術集会で症例報告として発表することを書面で説明し、同意書をもって同意を得た。

※研究：記載例①②とも必要、実践報告：記載例②必要。

7. 集録作成時の注意点

1)項目立て

<研究報告>

- | |
|------------|
| I. はじめに |
| II. 目的 |
| III. 用語の定義 |
| IV. 方法 |
| V. 倫理的配慮 |
| VI. 結果 |
| VII. 考察 |
| VIII. 結論 |
| IX. 引用文献 |

※原稿は別紙【研究報告】の様式1を参照し、作成する。
フォーマットはホームページよりダウンロードする。

<実践報告>

- | |
|---------------|
| I. はじめに |
| II. 目的 |
| III. 用語の定義 |
| IV. 看護実践 |
| V. 倫理的配慮 |
| VI. 結果・成果 |
| VII. 看護実践への示唆 |
| VIII. 引用文献 |

※原稿は別紙【実践報告】の様式2を参照し、作成する。
フォーマットはホームページよりダウンロードする。

2)原稿様式

- ・和文はMS明朝、英数字はTimes New Romanとする
- ・1段1行の文字数：22字
- ・1ページの行数：1枚目40行、2枚目以降48行以内
- ・図表を含み、白色A4用紙3ページを厳守

3)研究対象者の特定を避けるための表記について

- ・氏名、都道府県名、施設名、研究倫理審査委員会名はマスキングを行い、イニシャル表記や「当院」「当病棟」「K病院」「S氏(イニシャル)」といった表記はしない。研究倫理審査の承認番号内に施設名を表す表記がある場合は、同様にマスキングを行うこと。

【例】実名と関係なく「A病院」「B病棟」「C大学倫理審査委員会」等ABC順で記入

※集録原稿A様式について、研究倫理審査委員会名は正式名称を記載する。

4)薬品名について

一般名称で記載する。

5)文字や外国語表記について

- ・数字および英字は半角とする。ただし、1桁の数字および1文字のみの欧文(例：A施設、B氏、方法X、など)の場合は全角文字とする。
- また、量記号および単位記号(サンプル数のnや、確率のpなど)に対しては、イタリック体(斜体)を使用する。【例：n、p】
- ・略語は本文中の初出時(表題除く)に、省略していない形の記載の後に括弧書きを行い定義する。
- 【例】Ventilator associated pneumonia(以下VAPと略す)
- ・見出し数字番号は、I・II・III…、1・2・3…、1)・2)・3)…、(1)・(2)・(3)…の順で記載する。

6)利益相反に関して

利益相反の申告は本文中、引用文献リストの前に記載すること

7)文献に関して (第28回京都府看護学会より変更)

- ・本文中の引用と文献リストの記載方法は「APAスタイル」とする。
- 雑誌、単行本、翻訳書、ホームページ等によって記載方法が異なるため、巻末の資料ならびに詳細は参考ガイドライン・参考図書を参照。

<参考ガイドライン>

- ・米国心理学会(American Psychological Association, APA).『Publication Manual of the American Psychological Association,7th ed.』(2019)
- ・アメリカ心理学会(APA)著, 前田樹海・江藤裕之訳(2023).APA論文作成マニュアル(第3版).医学書院.

<参考図書>

- ・前田樹海,江藤裕之.(2023).APAに学ぶ看護系論文執筆のルール.医学書院.

8. 演題登録

1)演題申込書にて、演題種類(研究報告・実践報告)、発表希望形式(口演・示説)を明記し申し込む
集録原稿の書式は、ホームページより2種類(集録原稿A・B)ダウンロード可能、枚数は3枚以内とする。

(1)集録原稿A(集録印刷用)

- ・演題・キーワード・発表者名・共同研究者名・所属施設名を記載する。
- ・研究倫理委員会名は正式名称を記載する。

(2)集録原稿B(選考用)

- ・集録選考をするために、投稿者を特定できないよう発表者名、共同研究者名、所属施設名を記載しない。
- ・演題・キーワード・本文は「集録原稿A」と同一のものであること。
- ・研究倫理委員会名は伏字あるいは記号とする。 【例】「A大学倫理審査委員会」等

2)集録原稿2種類(集録原稿A, B)を準備し、「第28回京都府看護学会演題申込書」(別紙1)を添えて送付する。

3)演題申込書は漏れの無いように記載する。

9. 集録選考基準

*演題登録の際の参考としてご活用下さい

研究報告	
A 新規性および意義	看護実践に意味のある知見および研究の新規性が明確に示されている
B 倫理的配慮	倫理的配慮が適切に行われている
C 論理の一貫性	目的から結果・考察までに一貫性がある
	研究目的を明確に示している。
	分析方法を適切に示している
	事実を客観的に示している。
得られた結果に基づいた解釈をしている	
D 構成の適切性	演題登録要項に添って形式を整えている

実践報告	
A 看護の視点	看護実践に意味ある事実や知見が示されている
B 倫理的配慮	倫理的配慮が適切に行われている
C 論理の一貫性	目的から結果・考察までに一貫性がある
	実践のねらいを明確に示している
	実践内容（手順・過程や成果）を明確に示している。
	事実を客観的に示している。
得られた結果に基づいた解釈をしている	
D 構成の適切性	演題登録要項に添って形式を整えている

(日本看護学会学術集会 演題登録規程 2024年度版に準ずる)

10. 演題発表形式

発表形式は、以下の通り。詳細については、発表形式の通知時に案内予定。

1) 口演発表

1 演題につき「発表時間 8 分」

2) 示説発表

1 演題につき「発表時間 5 分」

11. 募集期限 令和 7 年 8 月 18 日 (月) 16 時 (必着)

12. 送付および問合せ先

〒606-8111

京都市左京区高野泉町 40-5 公益社団法人京都府看護協会 「第 28 回京都府看護学会」係

TEL 075-723-7195 FAX 075-723-7272 Email kyokango@kyokango.or.jp

APA スタイルによる文献の引用

1. 引用仕方

引用には直接引用と要約引用がある。

1)直接引用は、かぎ括弧「」で括って表示する。

【例】高野ら(2024)は、「……………」と報告した。

【例】「……………」(高野ら,2024)とされている。

2)要約引用は、引用文献の内容を要約して記述したもので、かぎ括弧で括る必要はない。

【例】泉ら(2024)は……との……の差は認められなかったと報告している。

【例】……との……の発症に有意な差はなかったという報告(泉ら,2024)もある。

2. 本文中の引用

本文中の引用個所の表示には、**著者姓と出版年**によって行う。

1)	出典の著者を本文に使用する場合	著者姓の直後に <u>半角カッコ</u> で括った出版年を表示する 【例】高野(2024)は、……について……と示している。
2)	本文で引用文だけを述べる場合	半角カッコ内に著者姓と出版年を(著者姓,出版年)で示す 著者姓と出版年の間は <u>半角コンマ</u> で区切る。 【例】……について……と示している(高野,2024)。
3)	著者1名の場合	全ての引用個所に著者姓を表記する
4)	2名の共著の場合	全ての引用個所に2名の著者姓を表記する
5)	共著者が3名以上の場合	初出、再引用にかかわらず、筆頭著者姓+らとする。 【例】高野ら(2024)の報告によると…… 【例】……と報告されている(高野ら,2024)。
6)	団体や組織が著者の場合	原典に記載されている名称を略さず表示 【例】○厚生労働省 ×厚労省
7)	書籍等の一部を引用する際	ページ番号を表示 引用個所の表示の際には、年号のあとに半角コンマで区切り、ページ番号を示す。
	単一ページの場合	「p.ページ番号」 【例】カッコ内表示の場合：(高野,2024,p.123) 【例】本文の構成要素として引用表示の場合 ：高野(2024,p.123)は……
	複数ページの場合	「pp.開始ページ番号・終了ページ番号」 【例】カッコ内表示の場合：(高野,2024,pp.123-124) 【例】本文の構成要素として引用表示の場合 ：高野(2024,pp.123-124)は……

3. 文献リスト

文献リストには、実際に本文中で引用した文献のみを一覧にし、参考文献は含まない。

1)記載方法

(1)書誌情報は「著者」「発行年」「タイトル」「出典」を記載。

・文献リストに記載すべき書誌情報は、書籍や学術誌掲載の論文など出典の種類によらず、下記のように表示。

・それぞれの要素は半角ピリオドで終え、年号はカッコで括る。

【基本】著者.(年号).タイトル.出典.

(2)文献リストは、ぶら下げインデントで記載

※文献リストに記載する文献は、出展ごとにぶら下げインデント(1行目は通常の開始位置、2行目以降は全角1文字程度の字下げをした書式)で記載。

【記載例】倉岡有美子,井部俊子,松永佳子.(2014).急性期病院における高齢患者の不穏状態と看護師の困難感.日赤看護学会誌,14(1),27-32.

2)文献リストの項目の並べ方

(1)筆頭著者の姓をアルファベット順に並べる。

(2)同一の著者による複数の文献は、出版年の新しいものから順に並べる。

(3)同一著者、同一出版年の複数の文献は、タイトルのアルファベット順に並べる。

3) 著者の表示

- (1) 著者の日本語表記はフルネームで全員記載し、ピリオドで終える。
- (2) 姓と名の間にはスペースは入れない。
- (3) 出典が共著の場合は、著者と著者の間を半角コンマで区切る。
- (4) 半角ピリオドで著者要素を終える。
【例】高野泉子,看護京子.(2024).認知症高齢者の・・・
- (5) 著者が団体の場合は、原典に記載されている名称をフルネームで記載。

4) 年号の表示

- (1) 出版年は、出版された西暦年を半角カッコで括って表示し、ピリオドで終える。
- (2) 書籍の出版年は、引用した版の第1刷の発行年を記載。
※増刷、重刷は原則として第1刷を記載。
- (3) 版の更新(例：改訂版、増補版、第3版など)は、内容の変更を伴うため、その発行年を記載。

5) 出典の表示

- (1) 出典は著者名、年号、タイトルの他に引用文献を特定するのに有用な情報であり、引用文献の種類によって記載事項は異なる。
- (2) 学術誌名は省略せずに正式名称を記載。
【例】○日本公衆衛生雑誌 ×日本公衛誌
- (3) 巻数と号数は、学術誌名のあとコンマに続けて半角アラビア数字で巻数(号数)を記載。
- (4) 発行元の名称に「株式会社」や「一般社団法人」など発行元の特定に必要な法人格名称等は省く。
【例】○医学書院 ×株式会社医学書院
- (5) オンライン出典は、出版データに続けて URL を記載
【例】厚生労働省.(2014).患者統計調査概版.<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/14/>
※URLのあとにピリオドはつけない。
- (6) デジタルオブジェクト識別子(Digital Object Identifier 以下 DOI)がある場合は DOI を表示。
【例】中村幸代,習田明裕.(2025).「看護師の健康に影響を与える仕事への態度」の概念分析.
日本看護科学会誌,45,1-13.<https://doi.org/10.5630/jans.45.1>
※DOI番号のあとにピリオドはつけない。
- (7) オンライン出典の検索日記載について
現在は APA 方式において、検索日は原則記載しない。
- (8) 変化するコンテンツ(逐次的な更新が前提となっているコンテンツ)の引用には検索日の記載が必要。URLのあとに括弧で括り(検索日 X年 Y月 Z日)と記載する。

※受理日

※受理番号

※欄は記入しないこと

第28回京都府看護学会演題申込書

下記項目について、漏れの内容に記入し郵送して下さい。

種別	<input type="checkbox"/> 研究報告	<input type="checkbox"/> 実践報告
発表希望形式	<input type="checkbox"/> 口演	<input type="checkbox"/> 示説
演題名		
キーワード	※集録内容を表すキーワードを3~5個明記	
演題カテゴリー	※日本看護学会学術集会演題登録区分に基づき、大項目、小項目の番号を選択して記載する。区分は演題募集を参照	
	大項目	小項目
筆頭研究者(発表者)	氏名(ふりがな)	
	京都府看護協会会員番号	
	所属施設名(正式名称)	
	施設住所	〒
	TEL	() — (内線)
	FAX	() —
	E-mail	※査読結果は発表者に通知いたします。院内で報告が必要な場合は、筆頭研究者(発表者)から通知結果をお伝えください

共同研究者について記載して下さい

※筆頭研究者(発表者)および共同研究者は、本会会員であること。ただし、共同研究者が看護職でない場合は、会員でなくても共同研究者となること出来る。

氏名	よみがな	職種	所属施設名	京都府看護協会 会員番号